



副田 基子氏

—地域でスポーツを楽しみながら、健康・日々の活力・仲間を得ることができる幸せ—

—バレーボールをはじめたきっかけを教えてください。

最初に、バレーボールに興味を持ったのは、小学2年生の時、テレビで見た東京オリンピックの女子決勝戦でした。いつかバレーボールをやりたいなと憧れながらも、当時の私はひ弱で引っ込み思案だったので、スポーツは無理かなと思っていました。小学校の部活動は園芸部で、中学でも文化系のクラブをと考えていましたが、進学した中学校は1年生は全員体育系クラブに入らなくてはなりません。思いきって好きなバレーボールを選ぶことになりました。2年生からは、自由に文化系クラブにも入れたのですが、1年間で体力も自信もついて、どんどんバレーボールが楽しくなっていき、続けることになりました。

—国立市バレーボール連盟に加入されたきっかけを教えてください。

国立市バレーボール連盟は加盟チームから出す常任理事で構成される常任理事会で運営されています。私もチームの常任理事を先輩から引き継いだ時から、バレーボール連盟役員として運営に携わるようになりました。

—国立市バレーボール連盟や国立市体育協会ではどのような活動をされましたか。

バレーボール連盟では書記を数年やらせていただいた後、副理事長として常任理事会での司会進行や連盟の活動を統括、連盟のより良い運営の手助けとなるよう務めてきました。

体育協会では広報部副部長として体協だよりの作成と配布、体育協会記念誌の編集、体育協会行事の記録写真などに携わっていました。

—地域におけるバレーボール競技の今後についてどのようにお考えですか。

バレーボールはプレーヤーの年代層や性別や初心者か経験者かなどで様々なチームがあります。国立市に縁のある方たちが自分に合ったチームで仲間とバレーボールを楽しめて、心身の健康や日々の活力が得られればと願っています。現在、国立市バレーボール連盟には男子2チームと女子は家庭婦人中心の6チームが加盟しています。女子の場合例えば、仕事と家事や育児、介護や子育て世代へのサポートなどで、練習や試合の日程確保が大変なこともあります。数年前より連盟役員の仕事、体協行事参加等の負担をなるべく軽くなるよう工夫しています。

—バレーボールという競技の魅力をお教えてください。

レシーバーが頑張って拾ったボールをセッターが思いを込めてトス、そのボールをスパイカーが皆の思いを胸にアタックして決まった時、チーム皆で喜びを分かち合うことができます。もちろん各個人のプレーとして上手くレシーブできたり、良いトスを上げられたり、アタックやサーブで得点できた時も嬉しいのですが、チームプレーとして繋がって実を結んだときの喜びは、より大きなものです。またうまくいかないときには、励ましあえる仲間がいるのもチームスポーツの良さです。このようにバレーボールの魅力は、チームメイトと喜びを分かち合い、励ましあいながら、達成感を得られるチームスポーツであることです。またポジションによって、個人の特徴をいかながら技術を高めていくことができ、個人での充実感や喜びを得るところです。



副田 基子（そえだ もとこ）氏

平成11年～現在	国立市バレーボール連盟加盟チーム所属
平成18年～21年	国立市バレーボール連盟 常任理事 書記
平成21年～29年	国立市バレーボール連盟 常任理事 副理事長
平成20年～現在	国立市体育協会 広報部(国立市バレーボール連盟)
平成23年～28年	国立市体育協会 常任理事 広報部副部長
平成30年～	国立市体育協会 理事(国立市バレーボール連盟)

※本記事は平成30年2月に行ったアンケートの内容を記事にしたものです。